

## シンポジウム開催報告

2008年7月15日  
言語教育情報研究科

立命館大学大学院言語教育情報科主催のシンポジウム『日本語教育の国際的な広がり - 理論と実践 - 』を以下の通り実施しました。

**日時：**2008年6月29日(日) 13:00～17:00

**場所：**立命館大学 衣笠キャンパス カンファレンスルーム

**成果：**シンポジウムの第1部では、国際協力基金日本語国際センター日本語教育専門員の横山紀子先生より、第二言語習得研究の代表的な理論である「インプット仮説」「アウトプット仮説」等の紹介及び、これらの仮説に基づいた研究により、言語教師が教育現場に活かせることについて講演がありました。第2部では海外にて日本語教育に携わったパネリストを迎え、海外での経験や、現場で気づいたことなどについてパネルディスカッションが行なわれました。

日本語教育はいまや、100カ国以上の国で学ばれています。学習方法というのは、それぞれの国の社会や文化を反映しており多様化しています。世界で通用する言語教育専門家になるためには、多様化している学習方法に対応できるだけの能力を備える必要性があり、そのためには、第二言語習得研究の理論は不可欠であるということがいえます。今回のシンポジウムにて、海外でも広がりつつある日本語教育の理論と実践について、理解を深めることができました。

**今後の事業への反映：**今回のシンポジウムで強調されたのは国内外で日本語教育に従事しようとする若手研究者にとって、第2言語習得研究の理論的枠組みの構築が必須であることでした。特にその理論的バックグラウンドとなり、また側面から支える研究としての発達心理学や認知科学の知識は重要と考えられます。そのため来年度から本格的にカリキュラムに組み入れる「教育発達心理学」、「認知科学と言語教育」、「教育認知心理学」などの分野の研究が言語習得や言語教育にどのように貢献するか、明らかにしていきたいと考えています。

**参加者人数及び業種：**71名(うち、学生38名、大学関係12名、その他日本語教育機関21名)